

平成 3 0 年度
事 業 計 画

堺市保健所

目 次

ページ

①	医務・厚生統計（保健医療課）	1
②	公害補償（保健医療課）	3
③	難病対策（保健医療課）	5
④	結核予防（感染症対策課）	8
⑤	予防接種（感染症対策課）	10
⑥	感染症対策（感染症対策課）	12
⑦	食品衛生（食品衛生課）	16
⑧	狂犬病予防と動物の愛護及び管理（動物指導センター）	23
⑨	環境衛生・薬事（環境薬務課）	27
⑩	生活衛生（生活衛生センター）	31

概要

1 医務業務

医療法等に基づき、病院・人工透析診療所等及び衛生検査所に対する立入検査の実施や病院・診療所等の開設許可、届出の受理及び医療従事者の免許に係る大阪府への進達事務を行う。また、医療に関する市民からの相談・苦情に応じるため、医療相談窓口を設置し、医療の質の向上を図る。

(1) 立入検査

病院、人工透析診療所、療養病床設置診療所及び有床診療所に対し、医療法その他の法令及び立入検査要綱（大阪府）等に基づき、人員・構造設備・管理体制などの検査項目により立入検査を行い、適正な医療提供の確保を図る。

また、臨床検査技師等に関する法律等に基づき、衛生検査所に対し立入検査を行い、適正な検査の確保を図る。

(2) 開設許可及び届出の受理、免許申請事務

医療法等に基づき病院・診療所・助産所・施術所等の開設の許可や届出の受理を行う。

また、医師、歯科医師、保健師、助産師、看護師、歯科技工士、薬剤師等の医療従事者の免許の登録、書き換え等に係る進達を行う。

(3) 医療相談

医療に関する患者・家族等からの相談・苦情等に迅速に対応するため専門の相談員を配置し、医療相談窓口を設置する。医療相談窓口寄せられた情報を医療機関に提供することにより、医療の安全と信頼を高めるとともに、患者サービス及び医療の質の向上を図る。

2 厚生統計

厚生統計とは、厚生労働省所管の統計調査で人口動態、保健等に関する統計のことを言う。

厚生統計は、厚生労働省などの各省庁や、地方自治体の行政施策の基礎資料となるほか、民間企業などでも利用される。調査の目的別の具体例は次のとおり。

○基幹統計調査

全国的な政策を企画立案し、又はこれを実施する上において特に重要な統計（基幹統計）の作成を目的として以下の統計調査を実施する。

(1) 人口動態調査

出生、死亡、死産、婚姻、離婚に関わる人口動態事象を把握し、衛生行政施策の基礎資料を得る。

(2) 国民生活基礎調査

保健・医療・福祉・年金・所得等国民生活の基礎的事項を把握し、厚生行政の企画及び運営に必要な基礎資料を得る。

(3) 医療施設調査

病院及び診療所の分布及び整備の実態を明らかにし、医療施設の診療機能を把握し、医療行政の基礎資料を得る。

(4) 患者調査

病院及び診療所を利用する患者について、その傷病状況等の実態を明らかにし、医療行政の基礎資料を得る。

○一般統計調査

基幹統計以外の統計として、病院報告、受療行動調査、医師・歯科医師・薬剤師調査、衛生行政報告例、地域保健・健康増進事業報告の統計調査を実施する。

公害補償

(保健医療課)

概要

本市の公害健康被害者対策は、昭和46年1月、三宝小学校区の40歳以上の住民を対象に「大気汚染が健康に及ぼす影響調査」を行ったところ、慢性気管支炎の有症率が6.9%という高い数値が示されたことにより、同年10月から取り組んだ本市独自の救済を始まりとしている。

昭和49年「公害健康被害補償法」が施行され、大気汚染による健康被害者に対して療養の給付等を行うとともに、損なわれた健康の回復を図るための公害保健福祉事業を実施してきた。その後、大気汚染の状況が変化してきたことから、昭和63年「公害健康被害の補償等に関する法律」が施行され、公害指定地域を全面解除し、新規の患者認定は行わないこととなった。現在は、既認定患者の補償と健康被害予防事業に重点を置いた対策へと転換している。

1 公害による健康被害者の認定

大気汚染による健康被害の指定疾病には、気管支ぜん息や慢性気管支炎などがあるが、これらは非特異的疾患であることから、指定地域に一定期間以上居住又は通勤し、指定疾病にかかっている場合、大気汚染の影響によるものとして認定してきた経緯がある。被認定者には公害医療手帳を交付し、3年毎に更新している。認定の更新、等級の認定等は公害健康被害認定審査会で審査している。

2 被認定者に対する給付

(1) 補償給付（公害健康被害の補償等に関する法律）

① 療養の給付及び療養費

指定疾病に係る治療を受けた場合に医療費を給付

② 障害補償費

満15歳以上の被認定者を対象に、指定疾病による障害等級に応じて支給

③ 遺族補償費

指定疾病によって死亡された場合、その人によって生計を維持していた一定範囲の遺族に支給

④ 遺族補償一時金

遺族補償費を受けることができる遺族がない場合に、一定範囲の遺族に支給

⑤ 療養手当

指定疾病に係る入院、通院の諸雑費にあてるため、診療実日数に応じて支給

⑥ 葬祭料

指定疾病によって死亡された場合、その葬祭を行う人に対して支給

3 公害保健福祉事業

被認定者の健康の回復と福祉の向上のため、次の事業を行う。

(1) 呼吸器教室

医師、理学療法士等による呼吸器教室を開催し、認定疾病に関する知識普及、療養上の指導を行うとともに、基礎体力の増進を図る。

(2) 吹き矢・ヨガ・太極拳教室

リハビリテーションの一環として運動療法を行い、基礎的体力の増進を図るとともに、指定疾病に関する知識の普及、療養上の指導を行う。

(3) 家庭療養指導

保健師が被認定者の自宅を訪問し、日常生活の指導や保健指導を行う。

(4) インフルエンザ予防接種費用助成事業

被認定患者で、インフルエンザ予防接種を受けた者の自己負担となる費用を助成する。

4 環境保健事業

慢性閉塞性肺疾患の予防、健康の回復を図るため、次の事業を実施する。

(1) 呼吸器疾患相談

医師、理学療法士等による呼吸器疾患の相談、指導を行い、疾病の予防及び疾病に対する知識の普及を図る。

(2) ぜん息児健康回復キャンプ

気管支ぜん息に罹患している小・中学生を対象に、年1回合宿を通じて療養生活上の指導を行う。

(3) ぜん息児水泳訓練教室

気管支ぜん息に罹患している3歳以上の未就学児、小学生を対象に、療養上有効な水泳訓練を行う。

5 石綿（アスベスト）検診

過去に石綿にばく露した可能性のある方を対象に、環境省が行う「石綿ばく露者の健康管理に係る試行調査」として検診を実施し、受診者の健康被害への不安をやわらげるとともに、継続した健康管理の勧奨を行う。

難病対策

(保健医療課)

概要

難病とは、発病の機構が明らかでなく、治療方法が確立していない希少な疾病であって、長期の療養を必要とするものとされている。難病や幼少期から長期にわたり治療が必要な慢性疾患は、治療が長引き完治しにくいことから、肉体的、心理的負担に加えて、医療費や介護費などの大きな経済的負担を患者や家族が抱えることになる。

国の難病対策は、昭和30年代に社会問題となった「スモン」対策として、研究推進と医療費助成を連動して行ったことに始まり、昭和47年に策定された「難病対策要綱」に基づき、推進されてきた。

難病及び小児の慢性疾患については、これまでも国が指定する疾患の患者に対し、国及び地方公共団体による医療費の助成が行われてきたが、難病については法律に基づく制度としては確立されておらず、小児の慢性疾患の医療費助成についても、安定的な財源の仕組みとなっていなかった。

このような背景を受けて、平成27年1月1日から「難病の患者に対する医療等に関する法律」(以下、「難病法」という。)及び「児童福祉法の一部を改正する法律」が施行された。法定化にあたっては、難病施策の総合的な基本方針の策定、新たな公平かつ安定的な医療費助成制度の確立、難病に関する調査研究の推進及び療養環境の整備が図られている。

特に医療費助成の対象となる指定難病については、従来の56疾病から段階的に拡大され、平成30年4月1日には331疾病となり、小児慢性特定疾病についても平成30年4月1日より756疾病に拡大された。

さらに、難病法の大都市特例に基づき、平成30年4月1日より医療費助成をはじめとする難病関係業務について、都道府県から政令指定都市へ権限が移譲された。

1 難病患者の保健福祉

(1) 特定医療費(指定難病)助成

難病法に基づき、国が定める指定難病について、治療方法の確立等に資するため、難病患者データの収集を効率的に行い治療研究を推進することに加え、効果的な治療方法が確立されるまでの間、指定難病患者の長期の療養による医療費の経済的な負担軽減を図ることを目的に、医療費の自己負担分の一部を公費助成している。

(2) 在宅人呼吸器使用患者への支援

当該指定難病を主たる要因として在宅で人工呼吸器を使用する指定難病患者に対し、訪問看護に係る費用を一部公費負担している。

(3) 療養の相談・指導

① 個別療養支援

特定医療費(指定難病)支給認定の申請時に、保健センターで患者又はその家族と面接を行い、必要に応じ保健師等が家庭訪問し、療養に関する指導援助を行っている。

また、指定難病のうち多系統萎縮症及びALS(筋委縮性側索硬化症)等重症化する神経筋難病6疾病を保健医療課で集中管理し、保健師による個別療養支援等を実施している。

② 難病患者支援センター

堺市立健康福祉プラザ内に難病患者支援センターを設置し、難病患者・家族の療養・生活上の悩みや不安等の解消を図り、療養生活や社会参加などに必要な情報を得るための場として、大阪府特定疾患研究会に委託し運営している。

学習会や患者同士の交流会、ワークショップ、仲間相談、就労支援等を実施することにより、疾病に関する知識の普及や療養生活に役立つ情報提供を行っている。

③ 難病支援連絡会

難病患者・家族が安心して療養できる環境づくりをめざし、市内の医療・保健・福祉等の難病関係支援者間のネットワーク構築を図り、一層の連携を推進するため、堺市難病支援連絡会を設置している。

2 小児慢性特定疾病

(1) 小児慢性特定疾病医療費助成

児童福祉法に基づき、国が定める小児慢性特定疾病にかかっている児童等について、健全育成の観点から、患児家庭の医療費の負担軽減を図るため、その医療費の自己負担分の一部を公費助成している。

市内に居住する18歳未満の児童で、対象疾病ごとに定められた疾病の状態の程度に該当する患者を対象とする。また、さらに継続して治療を必要とする場合は20歳未満までが対象となる(18歳以上の新規申請は対象外)。

(2) 日常生活用具の給付

小児慢性特定疾病の医療受給者証を交付された方で、日常生活に著しく支障のある場合は、疾病の種類や程度に応じて、日常生活用具の給付を行っている。ただし、他の制度による給付を受けていない方に限る。また、世帯の所得に応じて自己負担があり、品目ごとに上限額が決められている。

(3) こども健康手帳の交付

希望する患者に「こども健康手帳」を交付し、各自の治療内容、緊急時の処置方法などを記入し、一貫した治療及び指導に役立てるとともに、症状急変の際の迅速な対応を図る。

(4) 保健指導等

保健センターでは、家庭看護の指導、食事・栄養指導など、希望に応じて面接、家庭訪問を行う。

また、平成28年度から、難病患者支援センターに小児慢性特定疾病児童等自立支援員を配置し、疾病児童等の自立支援に向けた取り組みを進めている。

3 原子爆弾被爆者健康診断

原子爆弾被爆者の方が、今なお置かれている健康上の特別な状況を考え、その健康の保持及び向上を図るため、原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に基づき、大阪府の委託を受け、春期及び秋期の年2回、市内8か所の保健センターで健康診断を行っている。

4 骨髄移植普及促進

白血病等の治療が困難な血液疾患に対する有効な治療法のひとつである骨髄移植を一層普及するため、NPO法人等との連携の強化を進めながら、献血併行型ドナー登録会の拡充や、主に若年層を対象とした骨髄移植についての効果的な啓発などに取り組む。

平成30年度 事業スケジュール (保健医療課)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
医務管理係	<医療施設等立入検査業務>												
	<医療機関等の開設等届出受付業務及び立入検査業務>												
	<医療相談業務>												
	<保健所運営協議会業務>												
	<医療従事者実習等受入業務> 看護学生実習受入(オリエンテーション)												
	<熱中症予防対策業務>												
	<厚生労働統計業務> ←一国民生活基礎調査 →												
公害補償係	<補償給付業務>												
	<公害保健福祉業務>												
	<公害健康被害予防業務>												
	<石綿救済申請相談受付業務>												
指定難病係	<特定医療費(指定難病)助成制度に関する業務>												
	<堺市難病患者支援センター 運営管理>												
	<神経・筋難病 個別療養支援事業>												
	<難病患者療養支援 ネットワークづくり>												
	<小児慢性特定疾病医療費助成事業>												
	<原爆被害者に関する業務>												
	<その他業務>												

結 核 対 策

(感染症対策課)

概要

結核対策としては、健康診断、患者管理、医療費の公費負担等一貫した体系の中で実施する。

1 結核定期健康診断

(1) 肺がん・結核検診（一般住民検診）

小学校等地区会場へ胸部エックス線検診車を出動させ、40歳以上の一般市民を対象に、胸部エックス線検査を実施し結核の早期発見を図る。

(2) 結核定期健康診断補助金

結核定期健康診断を実施した私立学校等に対して補助金を交付する。

2 接触者健診

結核患者の家族及び結核患者と接触のあった者等に対し、結核予防上特に必要があると認めるときは、胸部エックス線、IGRA s 検査（QFT、T-SPOT、TB）等を実施し、他への感染の有無や新たな結核患者の早期発見を図る。

3 患者管理

(1) 患者登録・保健指導・服薬支援（DOTS）

結核患者を把握し、適切な対策、指導を行うために患者登録を行う。

また、服薬支援（DOTS）により、治療中断や脱落を予防し患者の治療完遂率向上を図る。

(2) 管理検診

結核登録票に登録されている者に対して、治療終了後の再発の有無や病状を把握するためにエックス線検査等による精密検査を行う。

(3) 定期病状調査

登録者の中で、公費負担医療及び管理検診による病状把握が困難な者について、医療機関から登録者の病状等を把握することにより、再発及び二次感染を防止する。

(4) 感染症（結核）発生動向調査

結核の登録者に関する情報を集中管理し、患者管理を行うとともに、結核対策策定の基礎資料とする。

4 感染防止

(1) 就業制限・入院勧告

公衆あるいは同居者に対する感染の防止を図るため、就業制限及び入院勧告を行う。

5 医療

(1) 医療機関の指定

結核医療の適切な普及のため、医療機関を指定し、告示する。

(2) 医療費の公費負担

結核患者の医療費については、結核治療に要する医療費の一部あるいは全部を公費負担する。

6 感染症診査協議会（結核診査部会）

結核患者の就業制限・入院勧告の要否及び医療の適否を審査する。

7 結核対策特別促進事業

地域住民等の自主的な協力と地域の実情に応じた重点的な結核対策事業を実施することにより、効率的・効果的な結核予防対策を推進する。

（主な事業）

結核の治癒率向上（DOTS（直接服薬確認療法））事業

ハイリスク者に対する健康診断事業（エックス線検査）

外国人に対するDOTSを行うために必要な医療通訳事業 など

予 防 接 種

(感染症対策課)

概要

1 予防接種

国民全体の免疫水準を維持し、伝染の恐れのある疾病の発生及びまん延を予防し、公衆衛生の向上及び増進に寄与することを目的として実施

予防接種の種類				接種対象年齢	実施場所	
四種混合 (ジフテリア 百日せき 破傷風 ポリオ)	D P T I P V	1 期	初 回	1 回目	生後 3～90 月未満	市内の委託医療機関
			2 回目			
			3 回目			
	追 加					
D T		2 期		11～13 歳未満	市内の委託医療機関	
麻しん・風しん			1 期	生後 12～24 月未満	市内の委託医療機関	
			2 期	5 歳～7 歳未満で、小学校就学日の 1 年前から就学日の前日までの間		
日本脳炎 (注 1)	1 期	初 回	1 回目	生後 6～90 月未満	市内の委託医療機関	
			2 回目			
		追 加				
2 期		9～13 歳未満				
B C G				1 歳未満 1 歳～4 歳未満 (注 2)	各保健センター	
ヒブ				生後 2 月～5 歳未満	市内の委託医療機関	
小児用肺炎球菌				生後 2 月～5 歳未満	市内の委託医療機関	
子宮頸がん予防				小学校 6 年生～高校 1 年生に 相当する年齢の女子	市内の委託医療機関	
水痘				生後 12～36 月未満	市内の委託医療機関	
B 型肝炎				1 歳未満	市内の委託医療機関	
インフルエンザ				65 歳以上 60～64 歳で特定の障害を持つ者	市内の委託医療機関で 10 月から 1 月に実施	
高齢者の肺炎球菌				65 歳以上 (注 3) 60～64 歳で特定の障害を持つ者	市内の委託医療機関	

- (注 1) 日本脳炎は、平成 23 年 5 月 20 日付、予防接種法施行令の改正により、平成 17 年度から平成 21 年度にかけて、日本脳炎の予防接種の積極的勧奨を差し控えたことにより、接種を受ける機会を逸した者（平成 7 年 4 月 2 日から平成 21 年 10 月 1 日までの間に生まれた者）に対し、不足している回数分を定期接種として実施。
- (注 2) BCG 予防接種は、結核まん延状況を勘案し、4 歳未満まで全額公費負担による実施（生後 1 歳から 4 歳未満は任意接種）。
- (注 3) 高齢者の肺炎球菌は、年度中に 65,70,75,80,85,90,95,100 歳となる者については定期接種として実施し、65 歳以上の定期接種対象者以外の者については任意接種として実施。

感 染 症 対 策

(感染症対策課)

概要

1 性感染症予防事業

梅毒血清反応検査及びクラミジア核酸同定検査を毎月1回各保健センターにおいて無料で実施している。梅毒血清反応検査は、HIV夜間検査（奇数月第3水曜日にサンスクエア堺にて実施）の会場でも、HIV検査と同時実施する。

また、6月を性感染症予防月間と定め、広報等による性感染症に関する知識の普及・啓発を行う。

2 エイズ予防事業

各保健センターにおいて、HIV無料検査（匿名可）やエイズに関する相談などを実施し、年2回夜間のHIV検査も行う。

また、12月1日の世界エイズデーを中心とした1週間をエイズ予防週間とし、エイズに関する正しい知識の普及、感染の予防、患者感染者への偏見・差別の解消を図ることを目的としてエイズキャンペーンを実施する。

さらに、休日即日検査を毎月第1土曜日に実施（サンスクエア堺：委託実施）し、平日即日検査を偶数月の第4木曜日（堺市保健医療センター）、夜間検査を奇数月第3水曜日に実施（サンスクエア堺）する。

3 肝炎ウイルス検査

薬害肝炎問題を契機として、国では国民に対し肝炎ウイルス検査の受診を呼びかけており、堺市でも保健センター及び市内協力医療機関において、ウイルス性肝炎患者等の重症化予防推進事業として無料検査を実施している。また、要精密検査者に対し専門医療機関の受診勧奨等のフォローアップ事業を実施する。

4 感染症予防事業

感染症予防事業は、感染症の発生子防に努めるとともに、感染症の患者の人権に配慮し、患者が良質かつ適切な医療を受けられるよう必要な措置を講じ、まん延防止のため防疫対策を実施する。

(1) 感染症分類（「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」による）

区 分	性 質	病 名
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症	(該当なし)
一類感染症	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、
二類感染症	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症	急性灰白髄炎、結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。）、中東呼吸器症候群（MERS、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）
新型インフルエンザ等感染症	「新型インフルエンザ」 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 「再興型インフルエンザ」 かつて世界的規模で流行したインフルエンザであってその後流行することなく長期間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの (告示で指定)	新型インフルエンザ、再興型インフルエンザ
三類感染症	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起し得る感染症	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス
四類感染症	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症	E型肝炎、A型肝炎、デング熱、ジカ熱、鳥インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9）を除く）その他政令で定めるもの

五類感染症	国が感染症発生動向調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を一般国民や医療関係者に提供・公開していくことによって、発生・拡大を防止すべき感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、梅毒、侵襲性肺炎球菌、後天性免疫不全症候群、アメーバ赤痢その他省令で定めるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定、1年限定）	(該当なし)

(2) 事業内容

ア 感染症患者発生に伴う調査

感染症患者が発生した場合、法に基づき、患者の人権に十分配慮し、すみやかに調査を行い、まん延防止の必要があると認めるときは入院勧告を行う。なお、一類感染症・二類感染症の患者が入院し72時間を超える場合には、感染症診査協議会の意見を聴く。また同時に、当該患者の家族等接触者に対して必要に応じて健康調査を実施し、その症状により健康診断を勧める。

イ 海外渡航者に対する健康調査

検疫所等から通知により、海外から帰国後発熱や下痢症状等を呈している者等に対して健康調査及び保健指導を行う。

ウ 感染症媒介蚊の調査

蚊が媒介する感染症の未然防止のため、市内で生息する蚊について定期的に捕集し、蚊の種類と数及び感染症病原体（デングウイルス・ウエストナイルウイルス・ジカウイルス・日本脳炎ウイルス等のウイルスが属するフラビウイルス属）の検査の遺伝子の有無を調査する。

5 風しん感染予防対策事業

風しんの感染予防とまん延防止対策として、特に「先天性風しん症候群」の発症を防ぐため、風しんの抗体価が低い者を抽出し、予防接種につなげる。風しんの抗体検査を保健センター等で実施するとともに、検査の結果、予防接種が必要な者に対し、医療機関での接種費用の一部を助成する。

食 品 衛 生

(食品衛生課)

概要

食品衛生法第24条の規定に基づき、毎年度、堺市食品衛生監視指導計画（以下「監視指導計画」という。）を定めている。この監視指導計画に基づき、地域の実情と食の安全をとりまく状況を踏まえ、食の安全・安心の確保に向けた効果的かつ効率的な監視指導等を実施する。

1 監視指導の実施体制及び連携の確保

(1) 監視指導の実施機関

監視指導計画に基づき、堺市保健所食品衛生課が監視指導を実施する。

(2) 庁内における連携

食の安全に関わる庁内部局と情報の共有や意見の交換を行い、連携を図る。

(3) 国との連携

大規模な食中毒の発生時、広域流通食品及び輸入食品の違反発見時などの全国レベルでの対応が必要な場合には、厚生労働省及び消費者庁と緊密な連絡調整と情報交換により連携して対応する。

(4) 他自治体との連携

ア 食品衛生を所管している府内自治体間で設置した「大阪府域自治体食品衛生主管課長連絡会」などを通して、食品衛生に関する情報の交換や連携を図り、「オール大阪」としての取組みを強化する。

イ 広域にわたる食中毒事件や違反食品の発見時などにおいては、関係する自治体の食品関係部局と緊密な連携をとって適切に対応する。

(5) 農林水産部局との連携

原材料や産地の表示などについて、食品表示法の品質事項に係る違反の疑いがある場合や、生産段階における食品の安全性確保のため、近畿農政局や大阪府の関連部局と情報を交換し、監視指導を行う。

(6) 試験検査の実施機関

食品等の試験検査は原則として堺市衛生研究所にて行う。

2 食品等事業者に対する監視指導の徹底

(1) 施設への監視指導

食品等関係施設に対して、業種、施設の規模、取扱い品目の状況、危害発生の可能性、食中毒及び違反食品の過去の問題発生状況に基づいて、業態ごとに表1のとおり年間立入回数を設定し監視指導を実施する。

表1 年間立入回数と対象施設

年間立入回数	業 態
年2回以上	食中毒・違反食品等原因施設、総合衛生管理製造過程承認施設、衛生管理に特に注意を必要とする施設（乳処理業等）、スーパー等の食品販売施設
年1回以上	広域流通食品製造施設、集団給食施設、大規模調理施設、生食用食肉取扱施設、食鳥処理施設、ふぐ処理営業施設
複数年に1回 (状況に応じて 随時立入)	上記以外の食品取扱い施設

(2) 食品等の収去検査

市内で製造、加工、流通、販売される食品等について、サルモネラ属菌、カンピロバクター、腸管出血性大腸菌等の食中毒菌汚染実態調査や、放射性物質、食品添加物、残留農薬等、特定原材料（アレルギー物質）、生食用食肉等の規格などの検査を実施する。これらの検査により、違反・不良食品の排除に努めるとともに、食品等事業者に対し科学的な知見に基づく監視指導を行い、食品の安全性を確保する。

(3) 重点的に行う監視指導

ア ノロウイルスによる食中毒の防止対策

ノロウイルスに感染している調理従事者の手指等を介した汚染による事例が多く発生している。このため、調理従事者の手洗いの励行、健康状態の確認、食品の衛生的取扱いについて監視指導を実施する。

また、貝類（カキなどの二枚貝）が原因と推定される食中毒事例も発生していることから、飲食店等での貝類の衛生的取扱い及び加熱の徹底について指導し、食中毒の発生防止に努める。

イ カンピロバクターによる食中毒の防止対策

鶏肉の生食を原因とするカンピロバクター食中毒は依然として全国で多発しており、本市でも鶏肉の生食や鳥のタタキ等の加熱不足を原因とする食中毒事件が発生している。

そこで、居酒屋や焼き鳥店に対して、鶏肉の取り扱いについての監視指導を行うとともに、生食用としてではなく、十分に加熱して提供するように注意喚起し、食中毒の発生予防に努める。

ウ 腸管出血性大腸菌による食中毒の防止対策

平成29年8月、関東地方を中心に、腸管出血性大腸菌O157による食中毒が発

生した。腸管出血性大腸菌による食中毒や感染症は例年全国で発生しており、特に乳幼児や高齢者では重症化することがある。

このため、生食用食肉加工施設、居酒屋、焼き肉店等において、基準に適合しない生食用食肉や肝臓等の提供がないかを監視するとともに、スーパー、惣菜チェーン店等が提供する惣菜などの衛生管理についても監視を強化する。

エ サルモネラ属菌による食中毒の防止対策

サルモネラ属菌による食中毒には鶏卵が関与している場合が多く、調理従事者や器具からの食品への二次汚染、食品の前日調理や室温での長時間放置などの不適切な温度管理が原因となることがあるため、飲食店等に対し二次汚染防止や食品の衛生的取扱いについての指導を強化する。

オ 寄生虫を原因とする食中毒

全国的に「アニサキス」「クドア・セブテンpunkタータ」など、寄生虫を原因とする食中毒が増加している。飲食店、魚介類販売施設に対し、寄生虫による食中毒の知識の普及を図り、魚の冷凍又は加熱処理、目視点検等の予防策について指導を行うことにより、食中毒の予防を図る。

カ ふぐ処理営業施設の監視

平成30年4月より「大阪府ふぐ処理業等の規制に関する条例」が大きく改正された。また、全国で毎年発生しているふぐ毒による食中毒は、死亡事故につながる可能性があることから、ふぐが流通する11月から2月にかけて、ふぐ処理登録者の確認や有毒部位の適正な取扱いなどについて、重点的に監視を実施するとともに、改正された条例について事業者にも周知し、ふぐによる食中毒の未然防止を図る。

キ 集団給食施設の監視

学校、保育所、病院、福祉施設、職員食堂などの給食施設は、食中毒が発生した場合に被害が拡大するおそれがあることから、食肉、生食用野菜、果実等の衛生管理の徹底など、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた監視指導を実施する。

特に有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅は、近年福祉需要の増大を背景に施設数や利用者が増加している。これらの施設での食事提供をより安全なものにするため、施設の規模に見合った衛生指導を実施する。

ク 仕出し弁当調製施設の監視

食中毒が多発する夏場を目前に控えた6月に、仕出し弁当調製施設に対して、最近の食中毒発生状況を踏まえた食品衛生講習会を実施し、併せて食品の検査及び施設の監視指導を行い、食中毒の未然防止に努める。

ケ 広域流通食品を製造する施設の監視

広域に流通する食品の製造施設における原材料、添加物、製造工程及び製品について監視指導を行うとともに、HACCPに基づく自主衛生管理の導入を促進

することで、違反食品の流通を未然に防止し、広域に流通する食品の安全を確保する。

コ スーパー、百貨店等の監視

食中毒の発生しやすい夏期と多品目の食品が短期間に流通する年末に、スーパーや百貨店等を中心に、食品の取扱い、表示などについて一斉監視を実施する。また、食品を収去して添加物や微生物などの検査を行い、食品の安全性確保を図る。

サ 和菓子製造施設の監視

和菓子は茶の湯とともに当市の名物としても親しまれているが、カビ等が生えやすく長期保存が難しいという側面がある。そこで、今年度より和菓子製造施設に対し、アレルギー物質を始めとする原材料表示、期限表示などについて、適正な表示がされているか確認を行うとともに、食品の衛生的な取扱いについて監視指導を行う。また、細菌検査等を行い、流通する食品の安全性確保を図る。

シ 食品表示の対策

アレルギー物質を含む旨の表示の漏れ、賞味期限や添加物などの誤記載による表示違反を未然に防ぐため、原材料の使用状況の確認、期限表示の設定、表示の点検方法など、適正な表示の徹底について監視指導を実施する。また、原材料の原産地表示など、食品表示法の品質事項については、農林水産部局等との連携を図り、産地偽装等の不適切な表示等がないか監視指導を実施する。

(4) 違反発生時の対応

ア 立入検査時の対応

施設、設備の基準、管理運営基準、表示基準等の違反を発見した場合は、その場で改善を指示し、不良食品が製造、販売されないように措置を講じる。違反が軽微であって直ちに改善が図られたものを除き、法令違反については書面での行政指導を行い、必要に応じて営業の禁止又は停止の処分を行う。

無許可営業を発見した場合は厳しく対処し、速やかに営業許可を取得させる。

イ 違反食品を発見した場合の対応

法令違反の食品等が発見した場合には、違反食品が使用及び販売されないよう廃棄、回収等の措置を速やかに講じる。また、食品表示に違反があった場合には、是正に必要な措置を講じ、緊急の必要性がある場合には回収等の装置を講じる。

ウ 食中毒等の健康被害発生時の対応

食中毒等の健康被害が発生した場合、直ちに調査を開始し、発生原因の究明に努めるとともに、施設の改善指示や営業の禁止・停止等の行政処分など必要な措置を講じることにより、被害の拡大及び再発の防止を図る。

エ 公表

違反による危害が広域に及ぶ場合や今後さらに被害が拡大するおそれがある場合、行政処分を行った場合、又は食品表示法に基づく指示等の措置を行った場合は、当該事業者の氏名、対象食品、措置内容等について公表する。また、緊急を要する場合や重大な健康被害を引き起こすおそれのある場合には、報道機関やホームページ等を通じて、消費者へ積極的に情報提供及び注意喚起を行う。

3 食品等事業者による自主衛生管理の推進

(1) HACCP導入の支援

食品衛生管理の国際基準として世界的に普及し、国も義務化の方針を示しているHACCP（ハサップ）について、その考え方に沿った衛生管理の定着に向け、知識の普及啓発・情報提供を行う。また、衛生管理の技術的支援を行うなど、HACCP導入に意欲のある食品等事業者に対して専門的な立場から助言を行い、より多くの食品等事業者がHACCPを導入できるよう努める。

(2) 自主衛生管理の推進

食品等事業者に対しては、自主的に管理する者として食品衛生管理者、食品衛生責任者等の設置を徹底し、自主検査の実施、原材料の安全確認、製造加工等における記録の作成及び保存など、自主的な衛生管理の促進を図る。

また、講習会の開催、ホームページによる情報提供などを活用して食品衛生管理者等の資質の向上と食品の安全に係る知識・技術の習得を推進する。

(3) 食品衛生指導員への支援

堺市食品衛生協会の活動として、食品衛生指導員が営業施設の巡回指導を行い、自主衛生管理の推進を図っている。食品衛生指導員に対して、研修会等を通じて最新の情報を提供するなど、円滑な自主衛生管理活動の推進に向けた支援を行う。

(4) 優秀施設の顕彰

事業者の食品衛生意識の向上を図ることを目的として、衛生管理が一定水準以上の優秀な施設に対して、食品衛生優秀施設の標識を交付し、これらの施設をホームページで公表する。

(5) 自主回収報告制度の徹底

食品衛生法や食品表示法に違反する、又はその疑いがある食品等を自主回収する場合は、大阪府食の安全安心推進条例の自主回収報告制度に基づき、市に報告するよう制度の定着を図り、事業者による主体的な安全確保の取組みを推進する。

4 消費者、食品等事業者への情報提供及び意見交換の推進

(1) 食品衛生監視指導計画の策定

ア 監視指導計画の策定にあたっては、監視指導や相談業務の中で寄せられる消費者及び食品等事業者からの意見や要望を参考に原案を作成する。この原案を公表

し、広く市民の意見を聴取して計画を策定することで、食の安全施策への市民参加を促進する。

イ 平成29年度の監視指導計画の実施状況については、平成30年6月末までにホームページで公表する。また、夏期及び年末食品の一斉監視などの実施状況、年度途中の食品等の検査の結果などについても、結果がまとまり次第、速やかに公表する。

(2) 消費者、食品等事業者との意見交換（リスクコミュニケーション）

市民や事業者に対し、食の安全安心に関する講習会や意見交換会を開催し、リスクコミュニケーションを推進する。

また、幼少期から正しい食品衛生知識を普及させるため、幼稚園児等を対象に食中毒予防の基本となる手洗いの重要性について手洗い教室を実施する。

(3) 消費者に対する情報提供

ア 家庭における食中毒防止と消費者の衛生知識の向上のため、わかりやすいパンフレットを作成し、講習会などを通じて情報の提供を行う。特に、鶏刺しや鶏タタキなど鶏肉の生食によるカンピロバクター食中毒の危険性についての周知を図る。

イ 食中毒が発生した際、重症化しやすい乳幼児に対しては、保健センターと連携し、パンフレットを配布して積極的に注意をよびかける。

ウ 食中毒予防啓発キャンペーンを関係団体と共同で行う。また、各区で開催される区民祭りに参画し、広く市民に食品衛生の知識普及を図る。

エ 食品等による危害発生防止のため、ホームページや広報さかいなどにより、迅速かつ的確な情報提供を行う。市民への緊急な注意喚起が必要な場合には、報道機関へ情報を提供する。

(4) 食品等事業者に対する情報提供

講習会などを通じ、食品衛生知識の普及に努める。また、食中毒及び食品の安全性を損なうような社会的問題が生じた場合は、関連する食品関係団体に注意喚起や情報提供の文書を送付し、食の安全確保に努める。

(5) 食育の推進

平成29年度より実施されている「第3次堺市食育推進計画」に基づき、関係部局と連携し、食の安全・安心確保のための情報提供を行う。

5 食品衛生業務に係る人材の育成及び資質の向上

食品衛生監視員は、厚生労働省や関係機関が実施する研修等に積極的に参加し、食品衛生に関する専門的知識や最新の情報を習得し、日常の監視業務に還元する。

特に、事業者へのHACCP導入を推進するため、その助言・指導を行える食品衛生監視員を養成する。

狂犬病予防と動物の愛護及び管理

(動物指導センター)

概要

狂犬病予防法、動物の愛護及び管理に関する法律（以下「動愛法」という。）、大阪府動物の愛護及び管理に関する条例（以下「府条例」という。）及び堺市動物の愛護及び管理に関する条例（以下「市条例」という。）に基づく狂犬病予防業務、動物の愛護及び管理業務を行い、公衆衛生の向上と、ペットによる飼育場所周辺の人・ものへの危害を防止し、人と動物が共生できる社会をめざします。

1 狂犬病予防

(1) 飼い犬の登録と予防注射

狂犬病予防法により、狂犬病の発生を予防するため、飼い主は、生後 91 日以上の犬に終生 1 回の登録と毎年 1 回の狂犬病予防注射を接種し、鑑札と注射済票を首輪に付ける義務があります。動物指導センターと各区保健センターで、登録（鑑札交付）と狂犬病予防注射済票の交付を行い、飼い犬の登録台帳の管理を行います。また、4 月に市内小学校、地域会館等で狂犬病予防集合注射を実施しています。

(2) 放浪犬の収容

放浪犬による市民の被害を防止するため、市民等からの通報に基づき、保護収容業務を行います。

(3) 咬傷事故指導

飼い犬が咬傷事故を起こした場合、飼い主は『飼い犬咬傷届出書』を市長に届け出るよう府条例第 4 条第 3 項に定められており、動物指導センターでは届出を受理し、原因を飼い主とともに考え再発を防止します。

2 愛護及び管理

(1) 飼育動物適正飼育啓発

動愛法及び府条例では、飼い犬の係留、捨て犬、捨て猫等の禁止及び飼育動物による迷惑行為の禁止等を飼い主に義務づけています。飼育動物の適正飼育の啓発にはホームページ、広報紙など各種媒体を活用します。個別の不適正飼育などの通報に際してはその趣旨等を説明し、正しい飼い方の指導と啓発を行います。

(2) 傷病動物等の保護収容

市内で保護された飼い主不明の犬・猫や、道路、公園、広場その他の公共の場所で、疾病に係り若しくは負傷している犬・猫等の動物を収容します。

(3) 飼い犬・飼い猫の引取り

飼い主が犬・猫を適正に飼い続けることができなくなったとき、犬・猫の引取りを行います。

飼い犬・飼い猫の引取りにあたっては、引取りを求める飼い主に事前にその理由を聞き取り、その事由がやむを得ないかどうかを判断し、やむを得ない場合のみ、引取り日時・場所を指定しています。

引取り動物	引取り場所等
飼い犬	動物指導センター、保健センター（堺・ちぬが丘を除く／午前中）
飼い猫	動物指導センター

(4) 収容動物の保管・返還・処分

収容した犬猫は、狂犬病予防法、府条例及び市条例に定めるところにより2日間公示した後、公示期間満了の日の翌日までに犬猫の所有者が判明しないときは処分します。

犬猫の所有者から返還の請求があった場合は、条例に基づき返還します。

(5) 堺市犬猫譲渡登録制度の実施

飼育している犬や猫を譲りたい人の情報と、新しく犬や猫を飼いたい人の情報を登録し、その情報を相互に交換することで新しい飼い主をさがす制度を実施します。

また、収容や引取りで、処分可能となった犬・猫のうち、譲渡可能と判断したものは、飼育希望者に譲渡します。

(6) 飼い犬のしつけ方教室・犬猫適正飼養講習会

犬の飼い主に対し、しつけの方法を習得していただく共に、適正な飼育方法を啓発するために、飼い犬のしつけ方教室を開催します。また、犬・猫を飼っている市民などを対象に、適正飼養講習会を開催します。

(7) 飼い猫の不妊手術費用一部助成

猫の不妊手術に係る費用負担を軽減することにより、猫の屋内飼育を推進、適正飼養を啓発し、動物愛護管理精神の高揚を図ります。

(8) 地域猫活動への支援

環境省の「住宅密集地における犬猫の適正飼養ガイドライン」に掲載された所有者のいない猫（野良猫）対策である地域猫活動を堺市ではその活動方法などを記載した「堺市地域猫活動ガイドブック」を作成しました。その活動を実施する際、活動グループを対象に地域猫活動支援として、不妊去勢手術費用の一部を助成します。また、保護檻の貸し出しなども行っています。

(9) 動物愛護フェア

動物愛護週間事業として、動物の愛護と適正な飼養について関心と理解を深めるため、適正飼育講習会、おもしろペット写真展及び動物慰霊碑への献花などを主な事業として動物愛護フェアを堺市獣医師会と協働で実施します。

(10) 動物取扱業及び特定動物飼養保管

第一種動物取扱業の登録、第二種動物取扱業の届出、特定動物飼養保管の許可及び飼養施設等への立入検査、監視指導業務を行います。

市内の事業所で第一種動物取扱業を営むものは、業種ごとに登録が必要です。また、第二種動物取扱業を実施するものは、業種ごとに届出が必要です。市内の飼養施設で特定動物の飼養又は保管をする場合は、事前に特定動物の種類ごとの飼養・保管許可を受ける必要があります。

平成30年度 事業計画（動物指導センター）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
狂犬病集 合予防注射						未注射再通知					狂犬病予防注射準備
	・飼い犬のしつけ方教室				・動物愛護週間 ・動物愛護フェア ・犬の正しい飼い方講習会	・飼い犬のしつけ方教室				・猫の正しい飼い方講習会	・飼い犬のしつけ方教室
				動物の適正飼養についての指導・啓発							
				動物取扱業の登録申請・監視・指導							
			特定動物飼養保管許可申請及び届出の受理・指導								
			犬の登録(鑑札交付)及び注射済票の交付								
			負傷動物の收容、放浪犬の收容								
			飼い犬・飼い猫の引取り								
			飼い犬の咬傷届の受理								
			犬・猫の譲渡、飼育の登録及び情報提供								
			猫の不妊手術助成受付								
			地域猫活動支援								

環境衛生・薬事

(環境薬務課)

概要

環境薬務課の業務は、市民生活における安全で快適な生活環境を維持・形成するため、環境衛生関係営業施設、貯水槽、特定建築物の衛生対策をはじめ、家庭用品、医薬品・医療機器・毒物劇物の安全対策及び薬物乱用防止啓発事業など多岐にわたっている。

1 営業六法関係施設などの衛生指導

旅館業、興行場、公衆浴場、理容所、美容所、クリーニング所、墓地、遊泳場、温泉、化製場、住宅宿泊事業などの諸法令・条例などに基づく許認可事務、立入検査並びに必要なに応じた科学的監視を実施する。

- ・理容所、美容所に対しては、衛生知識の普及啓発のための衛生講習会を開催する。また、営業六法施設の衛生水準の向上を図るため施設を表彰する。

- ・入浴施設及び遊泳場における衛生管理については、十分な衛生管理が確保出来ないと事故につながる危険性を含んでいる。そのため、業者等への啓発による衛生管理の徹底を図るとともに、各施設に対しては、その指導結果を確認するためまた、レジオネラ対策として定期的に採水検査を実施する。各遊泳場施設については、適正管理を含めた安全対策を前年度同様継続的に監視指導して行く。

- ・ラブホテル建築等規制条例の運用等については、まちづくりの観点から関係部局との連携を強化したなかで適正な条例の運用を図る。

- ・住宅宿泊事業法の円滑かつ適正な運用を図るため、関連部局との連携を強化し対応する。届出施設に対しては、適正な運営がなされているかについて定期的に監視を行う。

- ・旅館業法の許可を取得せず、又は住宅宿泊事業法の届出を行わずに営業している施設に対し、営業をやめるか、もしくは旅館業法や住宅宿泊事業法に基づいた適法な手続きを行うよう指導を行う。

関係法律：旅館業法 興行場法 公衆浴場法 理容師法 美容師法 クリーニング業法
墓地埋葬等に関する法律 温泉法 化製場等に関する法律、住宅宿泊事業法

関係条例：大阪府遊泳場条例 堺市ラブホテル建築等規制条例 堺市墓地等の経営の許可等に関する条例 堺市旅館業法施行条例 堺市興行場法施行条例 堺市公衆浴場法施行条例 堺市理容師法施行条例 堺市美容師法施行条例 堺市クリーニング業法施行条例 堺市化製場等に関する条例、堺市住宅宿泊事業に関する条例

2 貯水槽等の適正管理指導

- ・安全で安定的な給水を確保するため、水道法に基づき専用水道施設への立入検査を実

施する。特に地下水を使用している施設については、定期的に水質検査を実施し監視指導を強化する。

- ・簡易専用水道の設置者、管理者に対しては、法定検査の受検指導並びにその結果により、不適切な箇所について改善指導を行う。また、1年以内に1回の清掃を定期的に行うことなど管理基準の遵守について啓発・指導する。

- ・小規模貯水槽水道の設置者、管理者に対しては、上下水道局と連携を図り衛生的に問題のある施設について改善指導を行う。

- ・平成26年4月1日に大阪府より事務移譲された特設水道について、現状では該当施設はないが、今後、設置相談等があった場合には、大阪府特設水道条例に基づき布設及び管理の適正化を図るため啓発や指導を行う。

関係法律：水道法

関係条例：大阪府特設水道条例

3 建築物の衛生管理指導

建築物衛生法に基づく特定建築物の空気環境、給水・排水、清掃、ねずみ・害虫防除等の維持管理について、法に基づく立入検査を行い、多数の者が使用、利用する建築物の衛生的な環境の確保を図る。

関係法律：建築物における衛生的環境の確保に関する法律

4 浄化槽の維持管理指導

浄化槽については、公共用水域の水質の保全を図るため、浄化槽法に基づく維持管理(保守点検、清掃、法定検査)の指導や必要に応じて水質検査による監視指導を行う。

特に法定検査については、浄化槽所有者、管理者に対して受検指導を行い、併せて現場調査を実施する。

また、浄化槽保守点検業者の登録事務を行う。

関係法律：浄化槽法

関係条例：堺市浄化槽保守点検業者の登録に関する条例

5 家庭用品安全指導

衣料品、洗剤、家庭用エアゾル製品などの家庭用品に含有されている有害物質で起こる健康被害を未然に防止するため、試買試験(製品を買い上げて本市衛生研究所で検査を行う。)による監視指導を行う。効率的な試買試験を実施するため、大阪府・保健所設置市相互の連携を図り、試買品目の選定、試験成績、違反状況などの情報交換を行う。違反した家庭用品の製造、輸入、販売業者に対しては、家庭用品の回収・廃棄などの指導を行う。また、家庭用品に関する市民からの苦情相談については、消費生活センターと連携し対応する。

関係法律：有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律

6 医薬品・毒物劇物販売施設等の衛生管理指導

医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律に基づき、高品質で有効性及び安全性が確保された医薬品、医療機器等の供給を図り、市民の保健衛生の向上に寄与するために、薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業等の施設に対し監視指導を実施する。また、医薬部外品、化粧品等の販売に係る広告等に対し相談対応及び監視指導を行う。

インターネット販売等により流通している健康食品による健康被害の未然防止及び拡大防止を図ることを目的として、健康食品の試買検査を行う。

医薬品の適正な使用を図るため、関係団体等と連携して市民への啓発活動を行う。

毒物及び劇物取締法に基づき、毒物劇物販売業登録業者、特定毒物研究者及び毒物劇物業務上取扱者に対し監視指導を行い、毒物劇物の適正な販売・保管管理の徹底について啓発指導を行う。また、関係機関と協力し、危険物等積載車両一斉取締りの際、毒物劇物積載車両について調査指導を行う。

関係法律：医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
毒物及び劇物取締法

7 シンナー・覚醒剤等乱用防止啓発事業

現在、本市におけるシンナー・覚醒剤等乱用防止啓発は教育委員会事務局学校教育部生徒指導課、子ども青少年局子ども青少年育成部子ども家庭課及び本課が実施している。本課としては本年度、各区で行う7箇所の「区民まつり」等において、啓発パンフレット及び啓発グッズの配布や、青少年を対象に啓発クイズを行うと同時に、大麻や危険ドラッグ等の乱用防止啓発と相談機関の周知を目的としたチラシを配布する。また、学校等における薬物乱用防止教育の支援として、啓発冊子の提供や、DVD・パネル等の貸し出しを実施する。さらに懸垂幕の掲出、ホームページ・広報等による啓発を行う。

平成30年度環境衛生業務・薬務衛生業務計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理係							庶務事務・經由事務・統計事務			共有墓地監視指導		
薬務第一係							シンナー・覚醒剤等乱用防止啓発事業					
							医療機器販売業・毒劇物関係施設等監視指導					
							医療機器 国一斉監視					
							解毒剤備蓄状況調査					
							家庭用品試買検査、監視指導					
薬務第二係							薬局等許可等監視指導・広告監視指導					
							薬事 国一斉監視					
							医薬品等検査					
							薬の適正使用啓発 薬と健康の週間(10/17～23)					
営業指導係							理容所・美容所・クリーニング所施設監視指導					
							動物飼養施設監視指導					
							衛生講習会(理・美)					
							衛生講習会(公衆浴場)					
							公衆浴場監視指導					
							温泉利用施設監視指導					
							宿泊施設(旅館業法・住宅宿泊事業法)監視指導					
							通年プール監視指導					
							夏期プール監視指導					
							リネンサプライ					
							通年プール監視指導					
							リネンサプライ					
設備指導係							浄化槽監視指導					
							専用水道・簡易専用水道・小規模貯水槽水道・飲用井戸監視指導					
							特定建築物監視指導					

生活衛生

(生活衛生センター)

概要

市民が安全・安心して快適に暮らせる生活環境を確保するため、感染症の媒介となるネズミや衛生害虫、ハチ類をはじめとする不快害虫などについての相談対応及び指導啓発を行うとともに、状況に応じて防除駆除を行う。

また、地域住民の自主的な蚊の防除活動への支援、浸水災害時の被害家屋などの消毒、感染症媒介蚊類のサーベイランスの一環として蚊の捕獲調査、セアカゴケグモなど外来生物の生息調査などを行う。

1 ネズミや衛生害虫等の相談・啓発及び防除事業

(1) 相談対応

ネズミや衛生害虫などの市民相談に対して、必要に応じて現地調査を実施し、原因となっている害虫などの種の同定を行うとともに、発生状況や被害状況の把握を行う。

(2) 指導啓発活動

害虫などの生態に関する情報提供を行うとともに、その種類や発生状況に応じた適切な防除・駆除の方法について助言指導を行う。また、蓄積したデータや捕集した害虫サンプルなどを所内にて展示するほか、市民の自主防除意識の向上に資する効果的な資料を作成し、区民情報コーナーなどにおいて配架啓発を行う。

(3) 駆除処理

害虫発生時の駆除については、私有地及び公共地に関わらず原則として土地・建物等の所有者や管理者の責任において実施することとしている。ただし、公共地の発生において、管理所管部署から不特定多数の市民に危害が及ぶ危険性のある事案として協力依頼があった場合は、必要に応じ防除駆除を実施する。

(4) 散布機材・捕そ器の貸出

相談者が自主的にネズミや害虫の防除駆除を行うことができるよう、駆除方法及び生態の説明をするとともに、申出に応じて薬剤散布機材や捕そ器などの貸出を行う。

(5) 地域住民による蚊の防除活動への支援（地域実践活動）

自治会などの地域住民が自主的に蚊の発生を防ぎ、快適な住居環境を確保することができるよう、申請に応じて公道上の雨水集水桝に投与する防除薬剤を無償提供するとともに、蚊類の生態及び私有地内における効果的な防除方法などの説明を行う。

(6) 消毒処理

豪雨などによる浸水被害が発生した場合、管理所管部署と連携して消毒処理を実施し、感染症の予防と拡大防止に努める。

(7) 調査研究

○蚊の捕獲調査

感染症媒介蚊による感染症の蔓延を未然に防止する一手段として、感染症対策課主管のもと、衛生研究所と協同して、市内に分布する蚊の生息状況や感染症病原体保有状況などを調査する。

○セアカゴケグモ生息実態調査

生息範囲がほぼ日本全域に拡大しているセアカゴケグモについて、市内における生息実態を引き続き調査するとともに、調査時に発見したセアカゴケグモを駆除し、個体数の減少に努める。

(8) 住居環境改善援助事業

高齢や障害などで日常生活の自立困難となり、不衛生状態から害虫等が発生し生活環境が損なわれた世帯の家屋を対象に、住居環境の改善援助を目的に衛生害虫等を駆除し、感染症の発生及び害虫被害の防止を図る。

(9) 空家調査業務

市内の空家に関する害虫発生の申出に対し、空家特別措置法に基づく調査業務として、依頼状況の聴取、現地の状況確認、調査報告の作成などを実施する。なお、空家所有者への啓発や調査後の通報者への対応は保健所にて行う。

(10) アルゼンチンアリ対応業務

環境共生課と連携し、西区内で発生しているアルゼンチンアリの対応業務として、生息状況調査やベイト剤等による駆除作業などを引き続き実施する。

平成30年度 事業スケジュール (生活衛生センター)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談指導係	害虫相談対応(ハチ類、セアカゴケグモ、その他害虫)											
	住居環境改善援助事業・機材貸出・薬剤管理											
	○ネズミ類											
	ネズミに関する相談業務及び捕獲カゴの貸出											
	セアカゴケグモ生息実態調査 空家調査業務											
	アルゼンチンアリ対応業務											
	ゴキブリ駆除 強化調月間 28年度事業報告書作成											
	総合ネズミ 駆除運動の実施											
	庶務・経理関係											
	備品・資器材等の維持管理											
生活衛生係	○蚊類											
	地域実践活動											
	感染症媒介となる蚊類の捕獲調査											
	セアカゴケグモ生息実態調査 空家調査業務											
	アルゼンチンアリ対応業務											
薬剤回収及び効果把握												
報告書作成												
次年度の準備												